

リンダ フィッツジェラルド

アイルランド出身の元カトリック信者 (2/4)

:

明:

クルアーンを んだ 、リンダはイスラ ムに改宗して 去の信仰と生き方を てるという概念に苦 します。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: リンダ フィッツジェラルド

日 2 May 2014

集日 12 May 2014

クルアーン

クルアーンを んだ 、2つのことが起きました。まず、第2章（アル＝バカラ章）の21 を んだとき、 むのをやめ、目を じて神について考えていました。突然、私は神の唯一性、そして神の全能性についての感 を得たのです。私には、神が同位者を持つことの必然性が全くないことが分かりました。私にはただ、 かが神と同じ段 にいるはずがなく、神はそれを必要としていないことが分かりました。そのことに しては 信することが出来たのです。奇妙な平 が私に れ、唯一なる真 の神以外に神はないことを く 信したのです。私はその感 が永 に くことを いましたが、それは数分でどこかに行ってしまいました。

2度目は、ス ラ アル＝ハッジ（22章5）を んでいたときでした。再び目を じると、生まれたばかりの不毛な地球が浮かび上がりました。土が盛り上がり、 が木に成 する 程が えました。そして私はこう思ったのです。「その はどこから来たのだろうか？」世界中の美しい 々の植物はどこから来たのでしょうか。それは神以外からはあり得ません。私はまた平 と、神の を感じました。

改宗前の数ヶ月

それは私の人生において最も困 でありながら、最高の数ヶ月でした。私は に高 し、 に望していました。以下は、4月に いた日 の です。

「何か なことが私に起きていて、それについてどう感じればいいのか分からないわ。良いのか いのか、想像力が暴走しているのか、それとも自分自身を洗 させているのか。でも、それは正しいことで、そうなる 命なのかも知れない。

ただ、私はこれまでイスラ ムを勉 してきて、本当に改宗を考えている。神よ、お助け下さい。 在、何も考えることが出来なくて、何もかもが怖いわ。こんなことが私に起こるなんて全く考えても なかった。 かに以前は改宗なんてしたくなかった。私は自分自身をカトリックとして なしてきたし、いつも神を信じ、イエスが神の子だと信じてきた。今、そのことすべてに疑 を呈し、生まれたときから信じるよう言われていたこと、そして人生のありかたについて疑 を呈しているの。」

私は朝起床してから夜 宅するまでイスラ ムのことについて考えていました。しばらくつと、アザ ンを耳にすると礼 をしたいという い欲求を感じ、始めはキリスト教徒のやり方で祈りを捧げていました。そして の同僚に礼 の仕方についての本を求めたら、ある一 を渡してくれました。その本を んだり、テレビで礼 する人々を 察したり、山の をしたりしました。そうして私は礼 をし始めました。ただ、 では2人しか礼 の方法を知りませんでした。例のエジプト人と、彼同 とも信仰心の厚いムスリムのヨルダン人です。

当初、私は を覆い さずに礼 をしていました。私はそうすべきだということを知りませんでしたし、 かがそのことについてようやく教えてくれた も、なぜそうすべきなのか理解が出来ませんでした。それについてはある日 でハリドと い を交わしましたが、依然として理解することは出来ませんでした。そしてその日の夕方の 宅途中、バスリ へと いている途中、ふと神の 性を感じ、神に比べるといかに私がちっぽけで取るに足らない存在であるか、そして私の前に がる全世界において自分が のように小さく感じ

ました。神は私のあらゆる きを ることができ、私には傲慢である 利はなく、神をご 悦させることであれば何であれそれをすべきであるため、礼 には を覆うべきだと感じたのです。それ以降、礼 に を覆うべきであるということに疑念を感じることはなくなりました。

1995年4月23日の日

「いまだに何をしているのか分からなくなる。ある は、何もかもが明白になって『よし、私は信じるわ。そのことを声高らかに宣言したい』と思うけど、 の にはまったく自信をなくして疑念に をもたげ、何をすべきか分からなくなって恐怖するの。とてもしい。これは他の宗教よりも、とても良い宗教だと思っている。クルア ンは本当に美しいし、そこにはどう振舞うべきか、どう礼 すべきか、何をすべきか、何をすべきではないかなど、すべてのことが かれてある。 代の要求にかなったことをその都度 更するカトリック教会には、そういったものは一切ないわ。イスラ ムという宗教に えば、自分だけでなく、他人に しても い方向に向かうことはない。 切さ、忍耐深さ、 大きさを身につけることが出来るし、一日に5回の礼 をするから神のことを忘れることも ない。私はお祈りが好きだし、これまでもずっとそうだった。それがあったから人生のなかの良いことと、それがどこから来たのかを思い起こせし、常に感 の 持ちを持つことが出来た。それが人生に平 をもたらすのよ。」

には、イスラ ムを つけたことがとても嬉しかったですし、 には逆のこともありました。なぜなら真 を知ってしまった今、私には改宗以外の 肢がないことを悟ったのですが、依然として古い人生にしがみついたままだったからです。私は 酒やパ ティ を止めていましたが、欧米人の友 を失うことや、 を覆い すことに する偏 に晒されることが怖かったのです。そのことについてハ リドに何度も相 したのですが、その都度私は「ヒジャブを着ける勇 なんて はないわ」と言い、その都度彼は「神がお望みになれば、君も勇 を持つことが出来るよ」と言ったのです。

私の日 にはこうあります。「私の 点は、私が生来の臆病者だということ。私は を覆いしたときの人々の反 が心底恐ろしいわ。どうすれば母さんやオ ストラリアのリズにこのことを言えるだろうか。どうすればオ ストラリアやアイルランドで を覆うことが出

来るだろうか。そんなこと直面出来っこない。神さま、 さをください。」

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/115>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。